

# 香川宗葉さん

## 一瞬一瞬に捧げる茶人の思い

今年1月中旬、東京ミッドタウン八重洲の5階ラウンジにあるスタジオで、茶の湯を通して新春の喜びを分かち合う「初釜」が開かれた。令和5年3月に開業した商業施設の中、篇物姿で茶を点て、来客に芳しい茶を振る舞った。日本橋六之部主催のイベントで、正客のひとりとして中央区長の山本泰人氏の姿もあった。

茶席を用意し、迎える側の長を「亭主」という。この日の亭主は、月島に茶室「富貴庵」を構える香川宗葉さん。表千家教授者であり、中央区華道茶道連盟理事を務める。

「私たちの暮らしが日常であるならば、茶を楽しんでいる時間は非日常かもしれません。でも、たまには日常を離れ、静か落ち着いた時間に身をおき楽しんでいただけたら、心が豊かになり、日常生活もより豊かになるように思います。」

普段は茶と遠いところにいる人たちにも、茶の楽しさを少しでも感じてもらいたいと、香川さんは話す。中央区からの要請でこうした茶会の催しなどがあれば、積極的に受けるようになっているのも、こうした理念があるからだ。

この日は、創業元禄3年(1690)の日本橋の老舗「山本山」の茶を点てた。菓子は日本橋に明治43年(1910)から店を構えている「ときわ木」製。訪れる客は、香川さんたちが作りだしたなごやかな雰囲気の中、地元で愛され続ける老舗の味を楽しんだ。

香川さんは、中央区八重洲に生まれ育った。「生家は東京駅のすぐ近く、小学校は中央区立城東小学校。通学路は八重洲地下街でした。」

### ひと物語

三七二

お茶は一生勉強、と香川さんは続ける。

「今も学んでおりますが、講師の資格を取る時に頂いた教えは生忘れられませんが、その教えとは、『準備から始まって後片付けがすべて終わるまでが茶席。点前だけが大事なのではなく、お客様をおもてなしする準備をしっかりとすること、終われば片付けをし、着物を畳んでしまうまでが茶道であり、おもてなしのあるべき姿と教わりました。』

生涯の心構えとなった教えだと、香川さんは語る。

「茶事において大切なことは亭主が心を伝えることです。そのために、伝えたい気持ちを道具の取り合わせに託して準備することが亭主のもてなしです。一碗に込めた思いをお客様に伝えられるよう努めています。他の習い事や対人関係、仕事においても、同じことがいえるかもしれません。(一期一会) という言葉がありますが、この時、この場所、この同じメンバーでの出会いというのは、一度きり。一瞬一瞬を大切に、その日その時その場での出会いを大切にしていたら、おのずとおもてなしの姿勢は出来るのかもしれない。」

非日常のようである、茶道の教えは日常のどこにでも当てはめることができるものなのだろう。香川さんは自身の茶道教室「富貴庵」以外でも、中央区文化、国際交流振興協会、産業会館、いきいき浜町、中央区内の小学校などでも折に触れて茶道教室を開催。地域の人々と触れ合いながら、この地で学び続けている。



記事にある初釜の設え

MONTHLY NIHOMBASHI 日本橋 2025 3月号 ● 目次 NO.551

特集 ■ 日本橋元祖物語 4

- いろはにほなばし 二十二 17
- 粋人情(1991年・夏) / 小林紀晴 18
- 日本橋思い出横丁 酒田勝利(1) 21
- 江戸小娘 ⑧ / 筑後剛 22
- シンボルの日々 是好日 ⑧ / 商仲坊 24
- お江戸日本橋カチカチ講座 ⑧ / 鈴木浩三 26
- 江戸令和川柳歳時記(就業) / 松本充代 28
- 路上探偵日本橋をゆく ⑧ / 林丈二 34
- 道の先に食あり ⑧ / 井川直子 36
- 日本橋の建築装飾 第五十一回 / 五十嵐太郎 54
- にはんばし俳句みち / 小川晴子 60
- 気ままスケッチ / 小川幸治 87
- 日本橋で植物を愛でよう! 88
- 発掘! 日本橋逸聞逸事(5) / 中川越 89
- 逸品(江戸路) 38
- 人物語 ⑧ (香川宗葉) 40
- 月刊町会通信(人形町三丁目町会) 57
- お江戸日本橋MAP 42
- GALLERY & THEATER PICK UP 49
- 高島屋・三越 50
- 3月のGALLERY & THEATER 62
- かわらばん 64
- 日本橋らいんあっぷ 74
- 誌上市場 91
- 3月の西洋占星術 / ルネ・ヴァン・ダール研究所 58
- 旧暦ごよみ / 初だより 82
- 今月のプレゼント 83
- こちら編集部・おたより 84
- 今月の表紙 / 水森亜土・目次 90

